

競 技 注 意 事 項

1. 競技規則について

本大会は、2025 年度日本陸上競技連盟規則、ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 札幌市円山陸上競技場使用上の注意

- 1) 当該種目競技者以外は、競技エリアへの立ち入りを禁止する。
- 2) 両日とも棒高跳ピット周辺を練習場所として開放する。
また、ウォーミングアップ用としてトラック外側を開放するが、くれぐれも衝突には注意し、役員の指示には必ず従うこと。開門時間は審判 6:30、開催協力校 7:00、一般入場 7:10とする。
- 3) 朝のトラックを使用しての練習は、両日 **8:45 まで**とする。ただし、8:00 ごろにゼロ・コントロールテストを行うためゴール付近が通過できなくなるため留意すること。
- 4) **競技役員の人数の関係で両日ともに朝のフィールド種目の練習に関してはできないため留意すること。**

3. 点呼について

- 1) 競技者は指定された時間までに競技者係にて 1 次点呼（○付け、またはシューズ検定）を行い、その後、各競技開始場所に直接集合すること。1 次点呼（○付け）終了時刻・現地集合時刻は以下の通りとする。
- 2) ただし、男女 1500m については現地集合を 1500m スタート地点でなく、ゴール地点において行い、荷物ゴール地点に置いたままとする。

	1 次点呼終了時刻	現地集合時間
トラック競技	競技開始 40 分前	競技開始 20 分前
フィールド競技（棒高跳を除く）	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

- 3) 1 次点呼（○付け）のホワイトボードは、**競技場内 100m スタート側のスタンド下**に設ける。
特に 100m が行われている際にはスタートの妨げにならないよう、大声での会話は控えること。
- 4) 男女 3000m より長い種目は、シューズの厚さ検定と自身のレーンナンバーの書かれたビブスの配布をもって 1 次点呼とする。その点呼は 100m スタート側用器具庫にて行うため、注意すること。
その他の競技は、1 次点呼場所にて掲示されたスタートリストへの○付けをもって 1 次点呼とする。
- 5) 指定された時間までに 1 次点呼（○付け）を行わない、または指定された時間に競技開始場所にいなかった競技者は当該競技種目を棄権したものとみなし処理する。
- 6) 代理人による点呼は原則として認めない。
ただし、競技者が他の種目に出場中の場合のみ代理人による点呼を認める。その場合はその旨を競技者係にあらかじめ伝えておくこと。
- 7) リレー種目は、オーダー用紙（本部受付に用意）に走順・ナンバー・名前を記入し、1 次点呼（○付け）終了時刻の 1 時間前までに競技者係に提出すること。リレーメンバーの全員での点呼は行わず、オーダー提出後は競技開始の 20 分前までに各走者ごとに現地にて集合すること。
- 8) 棄権する場合は、1 次点呼の締め切り時刻までに競技者係まで申し出ること。

4. 棄権について

大会当日、やむなく棄権する場合は、1 次点呼終了時刻までに大会受付（メインスタンド下役員審判控室）または競技者係にある棄権届に必要事項を記入し、競技者係へ提出すること。

5. アスリートビブスについて

- 1) 学連に登録した競技者は、各自の学連ビブスを使用する。2025 年度のものを使用すること。
学連ビブスは受付の際に配布するため、まだ受け取っていない場合は大学ごとに取りに来ること。
- 2) 腰ナンバー標識は、個人トラック種目出場者については右側につける。4×100mR については、第 4 走者のみ右側につける。4×400mR については第 2・第 3 走者が両側に、第 4 走者が右側につける。
- 3) 3000m 以上の競技に出場する選手は、1 次点呼の際に競技者係にて配布するアスリートビブスを体の前後につける。
- 4) 本大会では腰ナンバー標識の貸し出しを行う。貸し出しを希望する競技者は競技者係まで申し出ること。貸し出しを受けた腰ナンバー標識は、必ず競技者係まで返却すること。また、各校が用意した腰ナンバー標識を使用してもよい。

6. シューズについて

- 1) 各競技者は日本陸上競技連盟競技規則 TR 5.2 に基づいたシューズを着用すること。
- 2) WA が作成した認証済みシューズリスト (<https://certcheck.worldathletics.org/FullList>) に基づき、使用の可否を判断する。ただし、リストに不掲載の靴については競技者係で計測の上競技規則を満たしているかの判断を行う。
- 3) 3000m 以上の種目に参加する競技者は全員必ずレースで使用するシューズを 1 次点呼場所に持参しシューズの厚さ検定を受けること。1 次点呼を兼ねているため、検定を受けなかった 場合は棄権として処理されるので注意すること。

7. 競技の抽選・番組編成について

- 1) トラック競技予選のレーン順、フィールド競技の試技順はアスリートランキング記載の順による。
- 2) 決勝の組み合わせ、およびレーン順は主催者が抽選する。
- 3) 事前棄権者が多数の場合など、予選ラウンドが行われなくなった競技については、選手の最高記録を考慮して決勝ラウンドの番組編成を行う。
- 4) 本大会は男子の 100m、200m、800m において A・B 決勝を行う。
予選はタイムレースで行い A 決勝は予選の上位 8 名、B 決勝は予選の 9～16 番目を対象として行い、表彰は A 決勝の上位 3 名を対象とする。

8. 用器具について

- 1) 競技に使用する用器具は、すべて主催者側が用意したものを使わなければならない。
ただし、投擲物は 1 次点呼終了時刻 1 時間前までに用器具庫で各々検査を受けて許可されたものに限り、個人所有のものを使用することができる。この投擲物は、他の競技者も使用できる。
(日本陸上競技連盟規則 TR 32.2)
- 2) 滑り止め(炭酸マグネシウム)は、主催者側では用意しない。必要に応じて各個人が個別に持参すること。

9. トラック競技について

- 1) すべて写真判定とするが、万一、機器が故障し復旧しない場合は、手動計時に切り替えて継続する。
- 2) 次の種目は、競技進行に遅れを生じさせる恐れがある場合のみ、次の条件で打ち切ることがある。制限時間は以下のとおりとする。

男子 3000mSC	15 分 00 秒	女子 3000mSC	18 分 00 秒
男子 5000m	18 分 00 秒	女子 5000m	22 分 00 秒
男子 10000m	40 分 00 秒	男子 10000mW	70 分 00 秒

10. フィールド競技について

- 1) フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- 2) 跳躍競技でのバーの上げ方は下記のとおりとするが、状況により変更することもあり得る。

	練習	試技
男子 走高跳	1m65	1m65 から 5cm、1m80 から 3cm
女子 走高跳	1m40	1m40 から 5cm、1m55 から 3cm
男子 棒高跳	2m40、3m80	2m40 から 20cm、3m40 から 10cm
女子 棒高跳	2m00、2m60	2m00 から 10cm
十種 走高跳	1m40	1m40 から 5cm、1m80 から 3cm
十種 棒高跳	2m00	2m00 から 20cm、2m80 から 10cm
七種 走高跳	1m20	1m20 から 5cm、1m40 から 3cm

- 3) 三段跳の踏切板は、男子は砂場から 11m、女子は砂場から 8m の位置に設置する。なお、この条件については状況により変更する場合もある。
- 4) 円滑な競技進行のため、試技を行う際には制限時間を遵守すること。
- 5) フィールド競技の競技場所に近接したスタンドにコーチングエリアを設ける。当該種目に出場している競技者とのコミュニケーションはコーチングエリアから行うこと。

11. 助力について

- 1) 競技者への助力については、日本陸上競技連盟規則 TR6 に則り規制される。これに抵触する場合は、審判長から注意・警告を行う。
- 2) 是正されない場合は、種目から除外される場合もある。

12. 抗議について

- 1) 競技進行中に起きた競技者の行為、または競技成績に関する抗議は、その競技者あるいはチームの代表者により結果が正式発表（アナウンス）されてから 30 分以内（同一日に次のラウンドが行われる競技では、その結果が正式に発表されてから 15 分以内）に、総務員を通して口頭で審判長になされなければならない。時間以内に申し出がなければ、何ら問題はなかったものとみなされる。
(日本陸上競技連盟競技規則 TR 8)
- 2) 抗議に対して審判長は速やかに裁定する。その裁定を不服とし、さらに抗議する場合は抗議申立書と預託金 10,000 円を添えて上訴する。この預託金は抗議が受け入れられなかった場合は没収される。
- 3) この間の事務処理は総務員が行い、抗議者は大会本部で待機する。

13. 撮影について

- 1) 競技者（選手）がカメラで撮影されることによって嫌悪や不安に感じられる場所からの撮影は禁止する。また、撮影をしている場所によっては不審と判断された場合、競技役員が注意・指導、撮影内容の確認をする場合がある。
- 2) 参加者による撮影に関しては、
 - ①所属団体がわかる服装をしているもの（学生に限る）
 - ②団体受付にてまとめて団体代表者に渡す「撮影許可証」を首から下げているもののどちらかの場合のみ許可する。学生の保護者や関係者などに関しては、関係団体より撮影許可証を借りること。

14. 表彰について

- 1) 各種目第 3 位までの入賞者を表彰するので、該当者は競技終了後にアナウンスがかかり次第、表彰席前（大会本部）に集合すること。

15. 応援について

集団での声出し応援を可能とする。ただし、以下の事項を遵守すること。

- 1) 集団での応援については、周囲の方に配慮し、迷惑とならないように配慮すること。
- 2) トラック種目のスタート前はいかなる状況でも声出しをやめること。
- 3) 役員の指示にはいかなる場合でも必ず従うこと。

16. その他

- 1) 競技者の衣類の管理は、すべて各自で行うこと。役員・補助員による運搬は行わない。
- 2) 盗難・紛失について、主催者で受領した物品については一時保管するが、その他のものについては一切責任を負わない。なお、主催者で受領した物品等は大会本部で管理する。
- 3) 競技中に発生した傷害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2025 年度公益社団法人日本学生陸上競技連合普通会員は、原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- 4) 横断幕の設置やのぼりの設置に関して、特に制約は設けないが常識の範囲内で周囲に迷惑のかからぬよう掲出すること。
- 5) 大会期間中に出了ゴミは、必ず各自で持ち帰ること。
- 6) 不審者・不審物等を発見したら、大会本部まで連絡すること。
- 7) その他、不明な点は大会本部まで問い合わせること。